

輸出事業計画

※申請者名：宮城県JA農産物輸出促進協議会、品目：さつまいも

1. 輸出における現状と課題

【現状】 令和4年、「さつまいも」生産拡大に向け、【宮城県さつまいも作付け・出荷検討会】を組織し、さつまいもの生産拡大に向け本格的に取組みを開始。令和6年8月「さつまいも」の輸出拡大を目的とし、宮城県JA農産物輸出促進協議会を設立した。東日本大震災の復興農地を活用し、「さつまいも」の生産を開始、以降、生産拡大を進めた結果、新たな産地（2JA）の増加に伴う課題を共有し、解決に取組むことで、生産・販売の安定化に取り組んでいる。

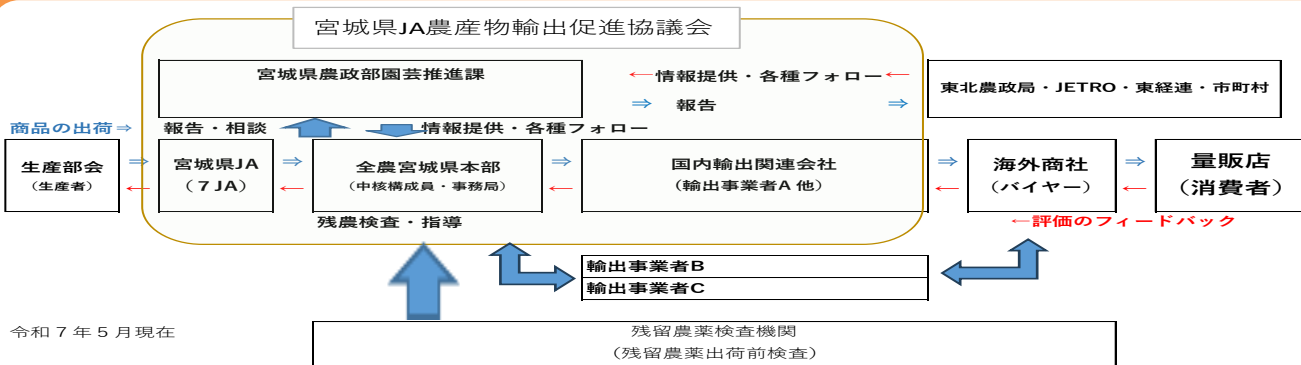
【課題】（各国共通）

- （生産）
 - 1 輸出相手先国ニーズに即した生産拡大対応不足。
 - 2 国内での残留農薬検査実施による履歴の検証不足。
 - 3 収穫・出荷作業時の選別基準（スレ果・傷果等）産地格差発生。
 - 4 生産者出荷時のJAにおける集荷数量把握に時間を要する。
- （流通）
 - 1 モーダルシフト（仙台港）を活用した輸出継続、ドライバー不足発生。
 - 2 リーファーコンテナ活用による長時間輸送時にDB潰れが発生。
 - 3 台湾向け航空機活用による小ロット輸送に温度変化によるヒートショック発生。
- （販売）
 - 1 輸出先国における、宮城県産さつまいもの認知度不足。
 - 2 輸出品拡大に向けた品種及び、販売先の拡大。

2. 輸出事業計画の取組内容

- （生産）
 - 1 作付け面積拡大による出荷量拡大。
 - 2 残留農薬検査を行い、相手先国基準への対応、データ蓄積を行い、講習会等を通じ、JA・生産者との情報共有。
 - 3 選別目線統一のため、選別作業を1か所に集約。収穫・出荷作業時に生じるスレ果・傷果発生防止チラシ作成配布。
 - 4 生産者別、出荷・荷受・選別・在庫・輸送までの管理システム導入によるデータ管理。
- （流通）
 - 1 地元仙台港を活用した輸出継続によるドライバー拘束時間短縮。
 - 2 DBの潰れによる商品ロス発生を防ぐDB/パレット積載方法の検証によるDB潰れ発生削減。
 - 3 リーファーコンテナを活用し台湾向け輸出に取組む。輸送量増加に伴う保管管理を進め物流改善を進める。
- （販売）
 - 1 輸出相手先国において販売員活用による販促、SNS・販促資材を活用した宮城県産さつまいもの認知度向上。
 - 2 輸出先国を拡大し、品種及び、出荷サイズの販売拡大を進める。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

（輸出品目：さつまいも）

		現状 (令和5年度)	目標年 (令和8年度)	備考
宮城県内全域	輸出額(千円)	8,120	16,000	
	輸出量(kg)	32,480	64,000	
	輸出先国	香港	香港・シンガポール・台湾	
	生産量(kg)	64,122	260,000	